

と き 2020. 03. 11 (水) 晴・強風

ところ 六十番・善福寺(妻良) 8:22-七十番・金泉寺(子浦) 8:53-峠越え一六十九番・常石寺(蛇石) 11:00~12:08(昼食)-蛇石見学-峠越え一七十一番・普照寺(伊浜) 13:51-R136下(波勝崎入口) 14:50

参加=16名 歩数=約3万 距離=約18km。

## 強風・強風、海は大荒れだった

前回最終の妻良・善福寺前から出発。海岸沿いのR136は、海からモーレツな風が吹いている。風道では、よろける。雨はイヤだが、風はもっと嫌いだ。子浦を目指す。



妻良



金泉寺



寺番さん

70番・金泉寺着。ご朱印係の寺番が来ない。寺番は檀家が交代でやっている。寺は鍵が掛かり入れず外でお勤め。冒頭、3・11犠牲者・被災者の黙とう。お勤めが終了間際、ようやく寺番が来た。ただ、寺番も鍵がなく入れないという。じゃあ、誰が入れるの??!!

子浦から標高160mの峠を越えて蛇石に向かう。途中、道端の地蔵を掃除する子浦のご婦人2人

がいた。子育て地蔵といった。しばし歓談。有難いことである。風があり気温が比較的低かったの  
ので快適に上れた。道々、「ウグイスの初鳴き」を聞いた。春だね。

途中、車で散歩??の松崎町の「変な外人（フランス人）」に会う。巡礼姿が珍しいのか、スマホ  
で動画を撮影していた。車には可愛いワンちゃんが座っていた。

蛇石への途中、2年前になかった素敵な「ホワイト・ハウス」を見た。娘さんの家らしいが、お母  
さんが庭掃除をしていた。2年来ないと情景は変わる。



お地蔵さん掃除のお母さん



「変な外人さん」



峠のお地蔵さま



ホワイト・ハウス



蛇石付近

69番・常石寺着。鈴木住職は昭和7年生まれ。御歳88歳。2010年、初めてお会いして10年経った。以前、静岡大学を卒業したと聞いた。ちょっとお歳をめされた。般若心経が後半、飛んでいた。何故か住職が鐘を何度も鳴らしてくれた。寺で昼食。日当たりが良く暖かく快適だった。最後は住職を囲んで記念撮影。パパさまが、夏ミカンのお土産をくれた。帰宅して食べたが、案外美味しかった。



常石寺



蛇石



ババさま

寺を下り、このあたりの地名になっている「蛇石」を見に行く。青野川の対岸に長く大きい石が蛇のように見える。

見学後、午後の巡礼。住職が、わざわざ道路に見送ってくれた。これは毎度のことです。なかなか出来ないことです。いつまでもお元気で。平戸集落を通過し峠を越えて伊浜に向かう。R136を横断して海拔0mに急下降。途中、日当たりの良いところに「ワラビ」が数本顔を出していた。下るほどに風が強くなる。海は白波を立てて、あまり見たことがないような荒れ模様だった。皆さん、夢中でシャッターを切った。

伊浜は100戸ほどの集落。20歳のころ会社の先輩のSさんが伊浜出身で、伊豆一周のサイクリング時、一晩世話になった。ただ、家がどの辺りか、どうしても分からなかった。狭い路地を自転車を引っ張った記憶はあるのですが・・・。

集落を通過し上って行く。左手に普照寺が見えた。住職が迎えてくれた。いつも感じの良い方。本堂は高台にあるので眺めがよい。この位置なら、津波は心配なさそう。本堂は響きがよく、お経が気持ち良かった。



伊浜



普照寺

終了後、住職の話を聞く。本尊の観音菩薩は、奈良時代の793年、浜に流れついたものを漁師が引き上げたという。

漁師の末裔は、今でも正月三が日に集まり、お祝いをしているという。しかし、今から1200年前、今でもかなり辺鄙なこの地に、何人かの住民がいたのだろうか。疑問に思った。(信じましょう、信じましょう)

今回はここで終了。ただ、R136まで上がっておかないと、次回大変なので最後の踏ん張り。標

高差は約100m。皆さん頑張った。ゲストの30代のM君は、ここでだいぶ参ったようだ。それでもバスに乗らず頑張った。サポーターのKさんにマッサージを施してもらったという。波勝崎入口まで上り終了。今日も完全燃焼でした。合掌。

(了)



住職



最後の上り

